

運動疫学 ニュースレター



日本運動疫学会
Japanese Association of Exercise Epidemiology

平成 30 年 1 月 15 日発行 No. 9

理事長就任のご挨拶

日本運動疫学会理事長／東京医科大学 井上 茂

6月の会務総会において理事長にご指名を頂きました。今期は2017年10月から2020年9月までが任期となります。2期目となり重い責任を感じていますが、皆様のお力を借りながら更にアクティブな日本運動疫学会を目指したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、新たな期にあたり本会の課題を整理し、以下に取り組みたいと考えています。

1) 会員の研究支援

学術総会、運動疫学セミナー、運動疫学の集い等を更に充実させ、会員の皆様の研究者としてのご発展に貢献したいと思っております。参加して良かったと思っただけの学会を目指します。

2) 情報発信

前期から公式声明委員会において情報発信を強化してまいりました。引き続き、情報の社会発信に努め、社会に貢献する学会を目指すと共に、学会の認知を高めていきたいと思っております。

3) オープンな日本運動疫学会

アクティブな学会ではありますが、「内輪」といった批判も聞かれます。意欲のある方は誰もが参加しやすい学会を目指したいと思っております。

4) 地方会員の活性化

近畿、中京地域も含めて地方の会員がやや少ない現状です。各地域の会員が増加し、各地方においても運動疫学が活性化することを目指したいと思

ます。

5) 雑誌「運動疫学研究」の発展

運動疫学研究に関する日本語の良い受け皿になれたらと考えています。J-Stageにアップすることを目標の一つにしましたが、編集委員会のご尽力で既にその目途が立ちました。引き続き原著論文投稿数の増加を目指したいと思います。

6) 日本疫学会への参加促進

日本疫学会における日本運動疫学会の認知度は高く、疫学において身体活動・運動の専門家が求められています。他分野の疫学者との交流が増えることで運動疫学がさらに発展することを期待しています。

7) 長期的将来構想の検討

更なる発展を目指して、長期的な展望を検討したいと考えています。

以上の目標を達成するためには活発な委員会活動が不可欠です。副理事長および各委員会の委員長は下記の先生方をお願いしました（敬称略）。

副理事長

岡 浩一朗（早稲田大学）

編集委員会

中田 由夫（筑波大学）

学術委員会

門間 陽樹（東北大学）

セミナー委員会

北畠 義典（埼玉県立大学）

2018年3月まで

笹井 浩行

（東京大学）

2018年4月より

広報委員会

久保田晃生

（東海大学）

プロジェクト委員会

小熊 祐子（慶應義塾大学）

総務・公式声明委員会

澤田 亨

（医薬基盤・健康・栄養研究所）

将来構想特命委員会

構想中

本学会が参加して下さる会員の皆様の活動・発展に貢献できるように尽力してまいります。会員の皆様の皆様には、積極的なご参加をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

1. 理事長就任のご挨拶	1
2. 第20回日本運動疫学会学術総会開催報告	2
3. 第21回日本運動疫学会学術総会のご案内	2
4. 第18回運動疫学セミナーのご報告	3
5. 運動疫学セミナー2017@箱根に参加して	3
6. 第3回運動疫学の集い報告	4
7. 投稿論文急募!	4
8. 「日本運動疫学会プロジェクト研究」を募集します（平成30年2月1日～4月30日）	4

第20回日本運動疫学会学術総会開催報告

第20回学術総会長／関西福祉科学大学 野村 卓生

2017年6月17日（土）、18日（日）の両日に神戸大学楠キャンパスにおいて、第20回日本運動疫学会学術総会（テーマ「Physical Activity and Life Stage～行動変容を促すために何をどこまでできるか～」）を開催させて頂きました。会場の手配は神戸大学の小野 玲 先生、学術総会事務には大阪労災病院の浅田 史成 先生にご尽力頂きました。また、相談役として武庫川女子大学の内藤 義彦 先生には大変多く

のご助言とご指導を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

学術総会には総勢158名の方からご参加をいただき、両日通して非常に有意義な学術総会となりました。今大会におきましては、例年にない数のプログラムを企画し、学会長記念講演、特別プログラム、2つのシンポジウム、2つの指定講演、ミニレクチャー、本学会プロジェクト研究委員会報告、本学会公式声明、一般演題口演セッション

（6演題）及びランチョンポスターセッション（16演題）を開催しました。特別プログラムでは、江崎 禎英 先生（経済産業省）、中山 健夫 先生（京都大学）、澤田 亨 先生（医薬基盤・健康・栄養研究所）にご講演いただきました。各先生の視点から、運動疫学の成果をどのように社会に発信していくべきかについての示唆をいただき、総合討論においても参加者の皆様と熱いディスカッションが繰り広げられました。

今回の総会では懇親会にも力を入れました。約100名に参加頂き、私の所属がある大阪府柏原市のご当地ワインや内藤先生お勤めのノーベル賞受賞晩餐会などの公式行事でも振舞われる兵庫県神戸市の日本酒を交わしながらの懇親会は、普段とはまた違う形での交流や意見交換ができ、とても盛り上がりました。関西の地で、「関西のうまいもん」も堪能して頂けたのではないかと思います。第20回学術総会に参加して頂いた皆様の記憶に残れば幸いです。



第21回日本運動疫学会学術総会のご案内

第21回学術総会長／早稲田大学 岡 浩一朗

1. 日時：2018年6月23日（土）・24日（日）
 2. 会場：早稲田大学早稲田キャンパス大隈記念講堂 小講堂他（住所：〒169-0071 東京都新宿区戸塚町1丁目104番）
 3. 組織：大会長：岡 浩一朗（早稲田大学スポーツ科学学術院）
副大会長：北畠 義典（埼玉県立大学）
事務局長：石井 香織（早稲田大学スポーツ科学学術院）
 4. 懇親会：2018年6月23日（土）（早稲田大学大隈ガーデンハウスの予定）
 6. 参加登録受付開始時期：2018年1月中旬（学会ホームページでご案内いたします）
 - 6：問い合わせ先：石井 香織
E-mail: ishiikaori@waseda.jp
- ※現在、プログラムの詳細な内容は調整中です。世界的にパンデミックと言われる身体活動不足や座りすぎは、日本国民においても大きな問題です。これらの問題解決に向けた有効な対策を会員の皆様と考える機会にしたいと思っております。是非ともご参

加いただきますようよろしくお願いいたします。



第18回運動疫学セミナーのご報告

セミナー委員会委員／早稲田大学 川上 諒子

2017年8月26日(土)～28日(月)に帝京大学箱根セミナーハウスにおいて第18回運動疫学セミナーを開催いたしました。今年度は、受講生31人(ベーシックコース27人、アドバンスコース4人)、講師12人、事務局1人の総勢44人での参加となりました。本セミナー開催にあたり世話人をお引き受けくださった帝京大学の桑原恵介先生に厚く御礼申し上げます。

本セミナーの初日から2日目の夕方までは、研究デザインの立案に必要な

知識が盛り込まれた運動疫学に関する講義を受講し、2日目の夕方から3日目のお昼にかけて5～6人ずつのグループに分かれて研究デザインの立案に取り組みました。そして最後に、研究デザインの発表会を実施いたしました。今回は、ベーシックコースからはコホート研究1題、症例対照研究1題、介入研究3題の研究デザインが発表され、アドバンスコースからは介入研究1題が発表されました。また、今年度からの新しい試みとして、より優れ

た研究デザインを立案したグループに各種賞が贈られました。今回、立案された研究デザインは日本運動疫学会のホームページに掲載されておりますので是非ご覧ください。

来年度の運動疫学セミナーは2018年8月31日(金)～9月2日(日)の2泊3日、宮城蔵王ロイヤルホテル(宮城県)で開催いたします。セミナーに関する情報は随時、学会ホームページに掲載いたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

運動疫学セミナー 2017@箱根に参加して

順天堂大学大学院 中瀬 崇

8月26日～28日の3日間、運動疫学セミナー@箱根(アドバンスコース)に参加いたしました。アドバンスコース参加の1番のきっかけは、昨年のベーシックコースで受けた刺激を再び!という思いからです。

アドバンスコースは私を含めて4名と例年よりも少ないとの事前連絡があり、今回は先生方の講義を聞く「インプット」だけでなく、現在進行中または構想中の研究デザインを1人ずつ発表する「アウトプット」がありました。受講生4名に対して先生方が5-7名の「緊張かつ豪華、贅沢な時間」です。私は、運動疫学的な研究ではなく、ある食品を摂取した際の生理学的応答の変化を評価するという研究デザインを発表し、サンプルサイズの計算、介入方法などに関して細かな点を含めて多くのアドバイスをいただきました。また、受講生から先生方への質問だけでなく、先生から先生への質問もあり、

研究を進める上で「この点を考慮・注意する必要がある」ということを知り、とても勉強になりました。

本セミナーの山場であるグループワークは、腰痛に悩む勤労者を対象に、体操を用いたランダム化比較試験に着手しました。昨年のベーシックコースで一度経験済みとは言え、実際に研究デザインを考えることは難しかったです。4名のこれまでの経験とセミナーで学んだ内容をお互いに確認し合い、不明な点に関しては先生方へアドバイスをいただきながらブラッシュアップし、納得のいく研究デザインに仕上がりました。グループワークは短い時間の中での大変な作業ですが、実際にデザインを考えて発表し、先生方からコメントをいただく経験はすべての受講生にとって今後生きる貴重な経験になったことと思います。

本セミナーの魅力は普段勉強している中で不明な点を直接先生方へ質問し

アドバイスをいただける点です。教科書、学会やシンポジウム参加などで勉強して、



わかったつもりになっていても実際には「？」の部分が多く、それらを直接先生方に解説していただくことで「なるほど、実はそういうことだったのか!」ということが多々あります。運動疫学研究を現在考えている方もそうでない方にとっても、楽しく、濃い3日間になると思います。実際、講師の先生方は受講生よりも楽しそうに?されているので、受講生の緊張はほとんどなく、気がつけばあっという間に時間が過ぎてしまいます。

最後になりますが、受講生のみならず、講師の先生方、3日間ありがとうございました。来年はフリーコースでの受講を考えています!

第3回運動疫学の集い報告

学術委員会委員／山梨大学 安藤 大輔

平成 29 年 9 月 15 日（金）に「第 3 回運動疫学の集い」が松山大学（愛媛県松山市）で開催され、昨年度を超える参加者となり盛会となりました。

今回は、日本を中心とした身体活動・運動の状況と課題を日本体力医学会員の方々と共有することも 1 つの狙いとして「日本の今を知る：身体活動・運動に関わる現状と課題—授業・現場で活かせる身体活動・運動の最新情報—」というテーマを掲げてシンポジウムを企画しました。まず、各ライフステージ、そしてライフコースにおける視点から「身体活動・運動と体力レベルの現状と課題」を共有することを狙いとして、最初に「子ども」について鈴木宏哉先生（順天堂大学）より、次に「成人」について丸藤祐子先生（医薬基盤・健康・

栄養研究所）より、続いて、「高齢者」について辻大士先生（千葉大学）より各世代における現状と課題に関してご発表いただきました。世代間で共通している課題に加え各世代に特有の課題もあり、またライフコースとして眺めた場合の課題も存在するを感じました。次に、近年トピックとなっている「座位行動」に関する我が国の現状と課題について菊池宏幸先生（東京医科大学）よりご発表いただき、最後に世代等に関わらず共通するキーワードである「政策・環境づくり」の現状と課題について武田典子先生（工学院大学）よりご発表いただきました。座位行動という新たな視点も加わり政策・環境づくりも今まで以上に広い視野で考えていくことの重要性を認識しまし

た。なお、各シンポジストの先生方のご厚意で発表時に使用したスライドの PDF ファイルが学会ホームページ上からダウンロードできるようになっておりますので、ぜひ授業・現場等でご活用ください。そして、終了後には懇親会を開催し、43 名の方々にご参加いただき、親睦を深めることができました。来年度も第 4 回の集いを開催する予定ですので、ぜひご参加ください。



投稿論文急募！

編集委員会委員長／筑波大学 中田由夫

本学会では、3 月 31 日と 9 月 30 日の年 2 回、会誌「運動疫学研究」を発売しています。総説、原著、資料、実践報告については査読を付けて、採用 / 不採用を判断しています。査読は迅速におこなわれていて、この 1 年間で採否を判断した論文の投稿受付から初回判断までの平均日数は 17.5 日、最終的な判断までの平均日数は 63.8 日となっています。2016 年の 18 巻 1 号より、「日本運動疫学会プロジェクト研究 “介入研究によるエビデンス提供”」を資料論文として受け付けていて、これまでに 6 編のエビデンス論文が掲載されています。また、同じく 18 巻 1 号より、英語論文の日本語による二次出版を受け付けていて、これまでに 7 編の論文が掲載されています。なお、二次出版論文には査読を付けず、原文との整合性を編集委員会で確認した後に掲載しています。次号発行に向けて、肝心の投稿論文が集まっておらず、苦慮しています。会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

「日本運動疫学会プロジェクト研究」を募集します (平成 30 年 2 月 1 日～4 月 30 日)

プロジェクト研究委員会委員長／慶應義塾大学 小熊 祐子

「日本運動疫学会プロジェクト研究」とは、運動疫学分野の発展に寄与するとともに社会貢献度が高い研究プロジェクトとして本学会が認定する研究のことを指します。①新奇性・独創性が高い、②大きな成果が期待できる、③社会貢献度が高いなどの要件を満たす運動疫学に資する研究を総合的に判断して認定します。認定されることで、本学会が有するネットワークとの連結や情報共有などの面で、学会から支援を受けられます。研究期間は 3 年以内ですが、更新も可能です。

研究代表者（会員に限定）の方は、申請書をプロジェクト研究委員会 (jaee.project@gmail.com) に提出してください。申請書は学会 HP よりダウンロードできます。学術総会で採択研究を公表します。

* 研究アイデアの提案は随時受け付けています。

* 学会 HP (<http://jaee.umin.jp/news161210.html>) も併せてご参照ください。

発行：日本運動疫学会
編集：日本運動疫学会 広報委員会
日本運動疫学会事務局
〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1
東京医科大学公衆衛生学分野
E-mail: jaee.info@gmail.com